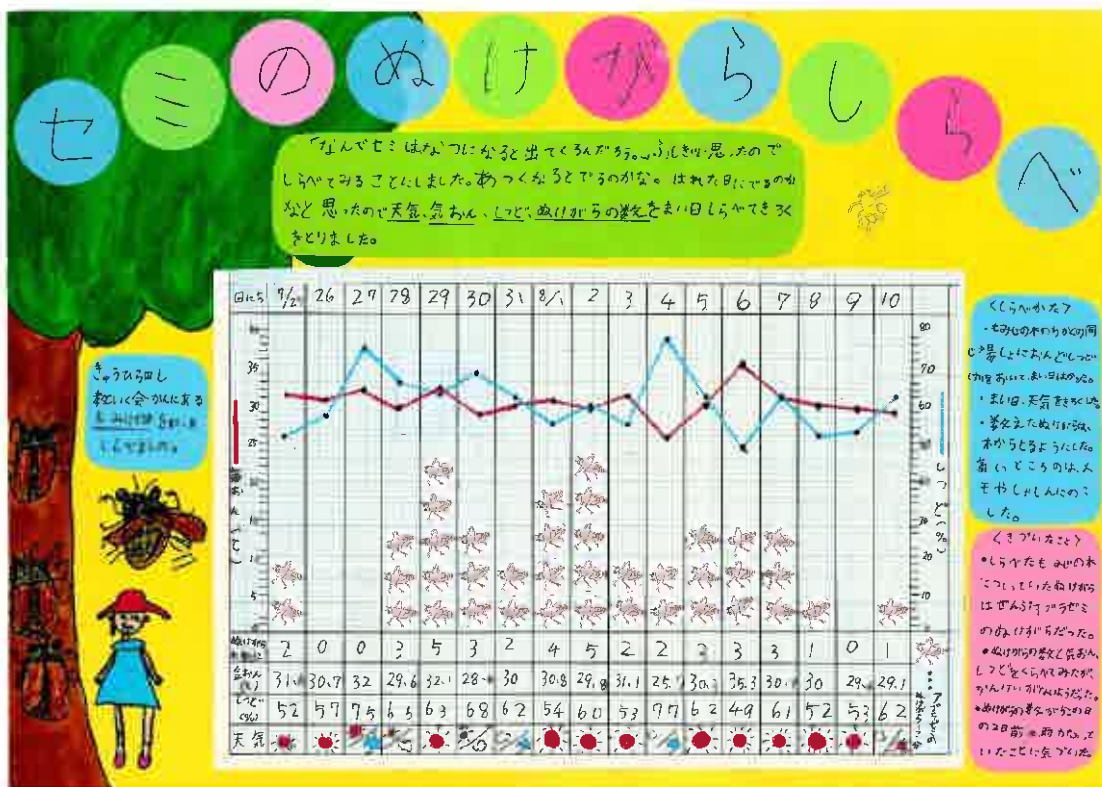


令和4年度島根県統計グラフコンクール 特選作品・講評

○第1部 特選

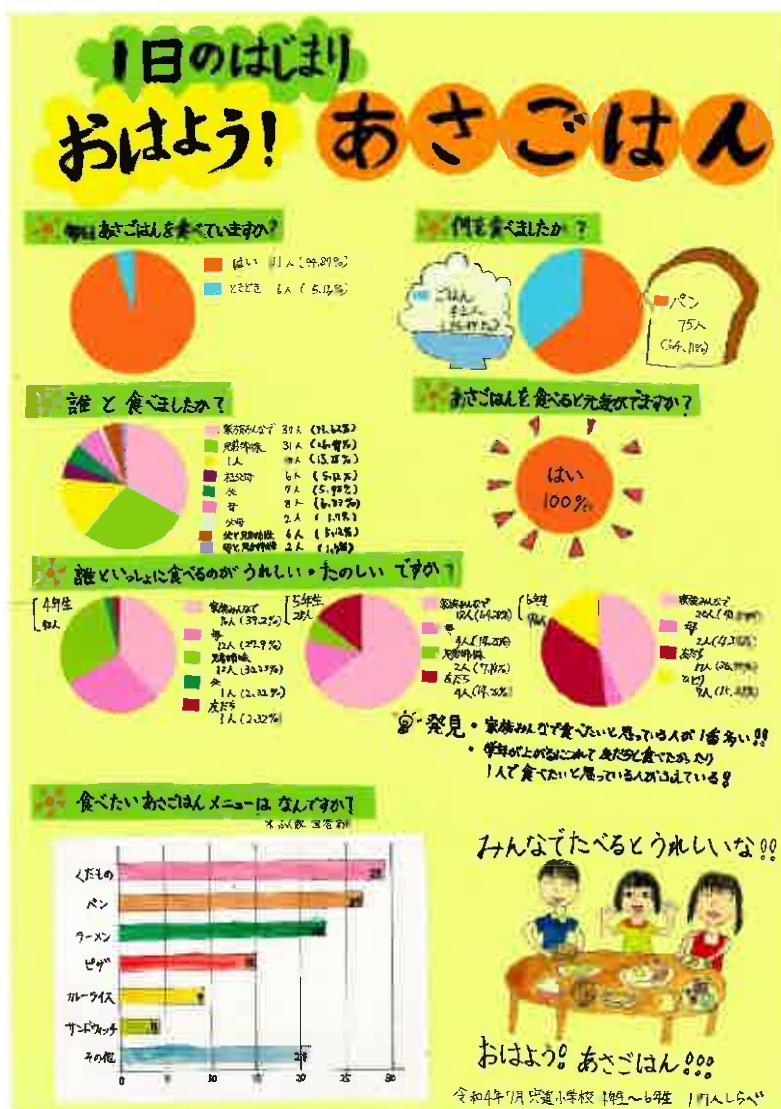


「セミのぬげがらしらべ」
出雲市立平田小学校 2年 岸本 芽

夏になるとセミが出てくるのはなぜだろうという素朴な疑問から、天気・気温・湿度が関係するのではないかと予想して調べた作品です。

結果は、予想と違い気温などとは関係が見られなかったこと、でも、雨の日が関係しているんだということが素直にまとめられています。

各調査項目を1つのグラフにまとめて、とても見やすくわかりやすい作りとなっており、イラストや絵も添えて小学生らしい微笑ましい作品です。



「1日のはじまり おはよう! あさごはん」

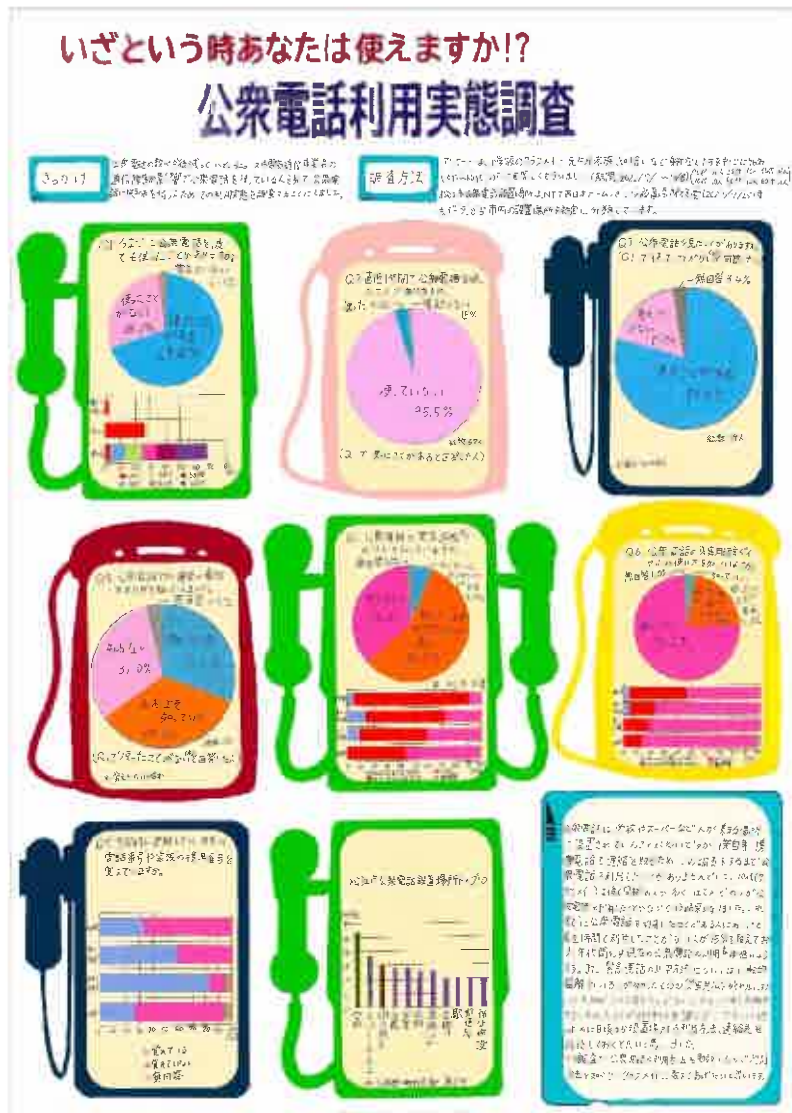
松江市立栄道小学校 4年 永原 夢乃

朝ごはんをテーマに、実際に学校で100人以上にアンケート調査を行った作品です。

鮮やかな円グラフを用いて調査結果をわかりやすく伝えていて、全体としてもとてもきれいにまとめられています。

学年別グラフからの新たな発見や、「みんなで食べたい」という作者の思いが伝わってくる作品となっています。

○第3部 特選



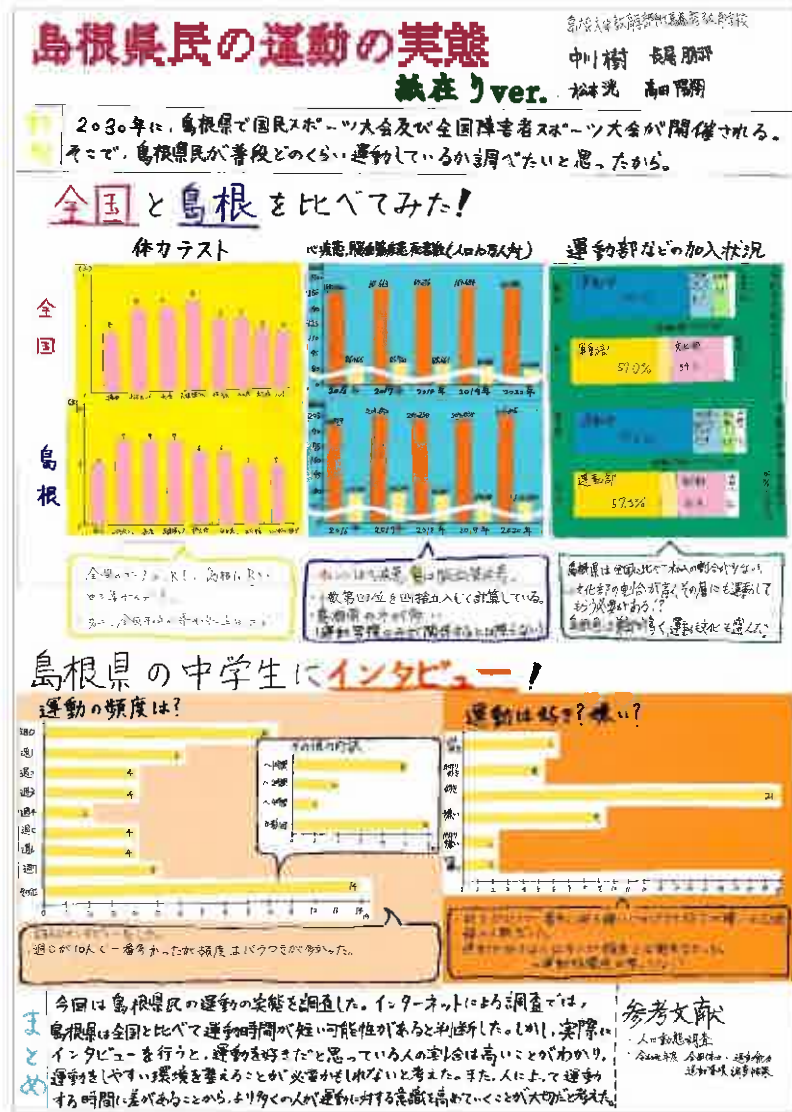
「いざという時あなたは使えますか!? 公衆電話利用実態調査」

松江市立古志原小学校 6年 米田 健

通信障害のニュース等をきっかけに、町中ではあまり見かけなくなった公衆電話をテーマに捉え、幅広い年代の方に実際にアンケート調査を行った作品です。

全体割合を円グラフで表し、年代別割合を帯グラフで表すなどグラフを的確に使い分けして調査結果を分析し、自分なりの考えをまとめている点が素晴らしいです。

また、電話機を枠として配置するなどデザインにも人目を引く工夫がされた作品です。



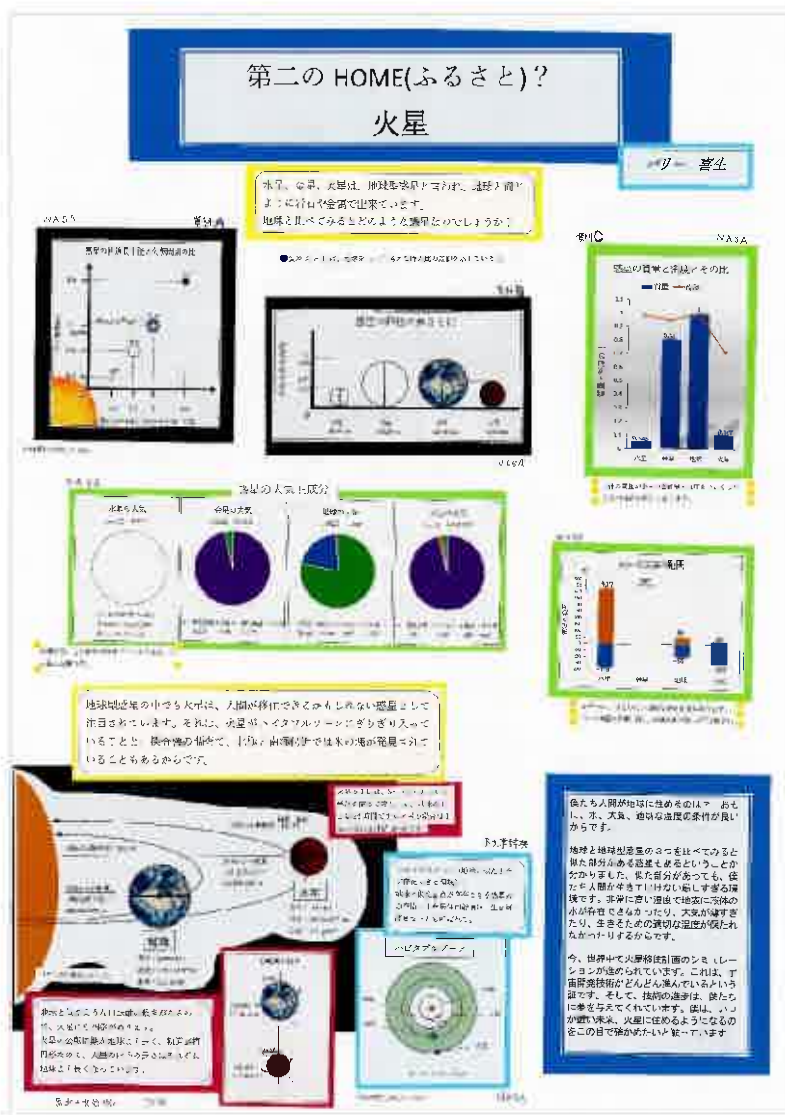
「島根県民の運動の実態 紙在り ver.」

島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程 3年 中川 樹、長尾 朋祐
松本 洸、高田 陽翔

島根県民の運動の実態を、体力テスト結果、健康状態、部活動状況など様々な視点から調べ、運動習慣の大切さを表現した作品です。

島根県の実態に加えて全国との比較を行っている点や、インターネットからの資料だけでなく、実際にインタビューを行い統計の検証を行っている点が素晴らしいです。

レイアウトや色合いもバランスのとれた見やすい作品となっています。



「第二の HOME(ふるさと)? 火星」

松江市立第二中学校 2年 バリー 喜生

火星への移住に思いを馳せた斬新で興味深いテーマの作品です。

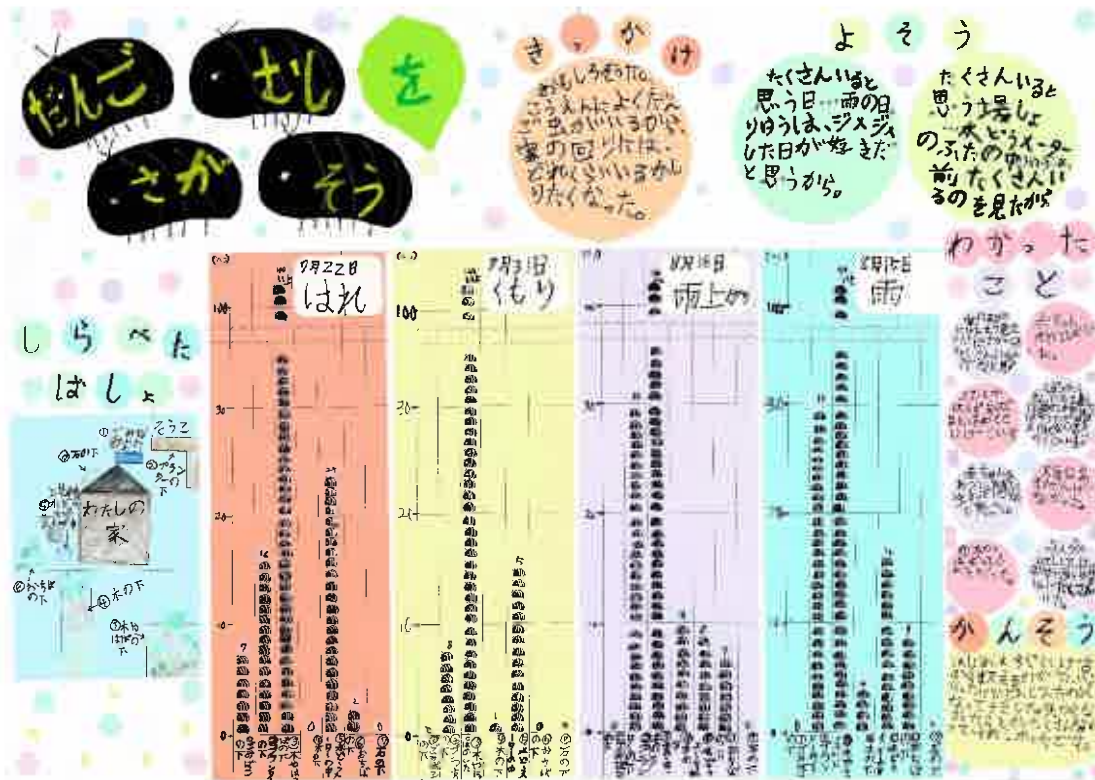
地球と他の惑星を比較し、円グラフ、棒グラフ、図を的確に用いて、多くの資料から自分の考えがまとめられています。

地球の図を使うなど、グラフの色使いも美しい作品となっています。

調べようと思ったきっかけにも触れられているとなお良いでしょう。

令和5年度島根県統計グラフコンクール 特選作品・講評

○第1部 特選



「だんごむしをさがそう」

松江市立城北小学校 2年 神田 華

公園でたくさん見かけるダンゴムシが、家の周りにどれくらいいるのかという素朴な疑問から、興味を持って予想・調査をしたユニークなテーマとなっています。

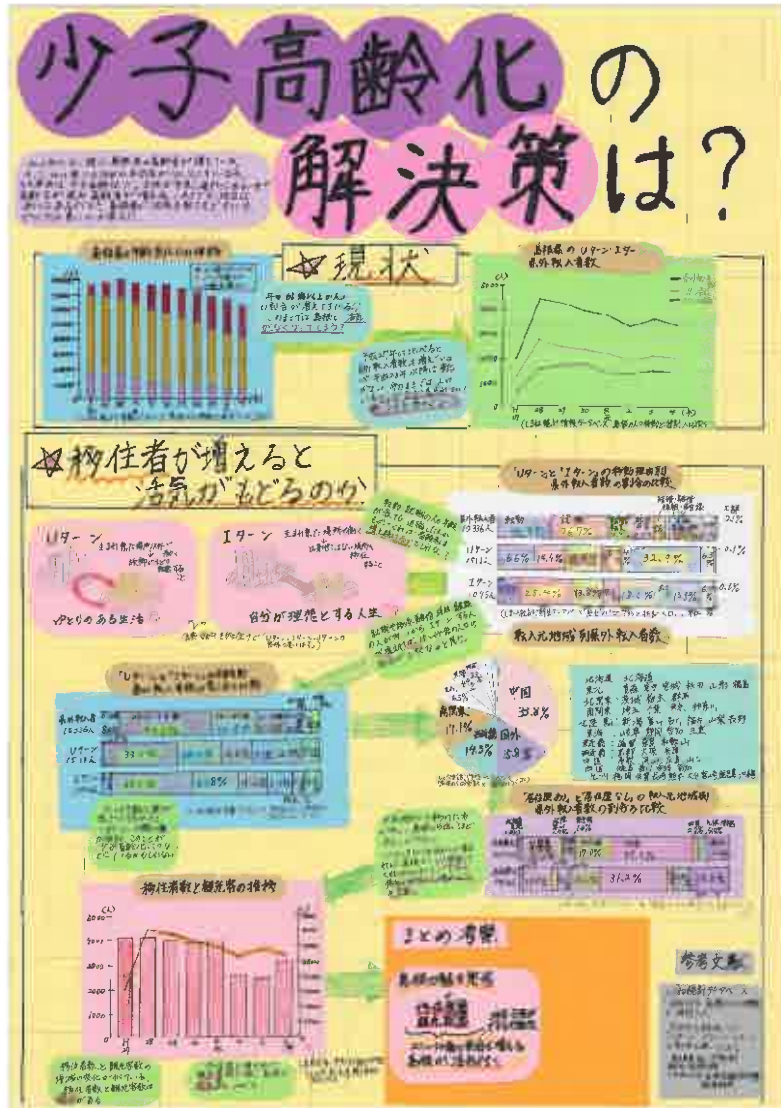
天気と場所の両面から調査することでデータに深みを持たせ、ダンゴムシを模したシールを作ってグラフにしており、丁寧で緻密な素晴らしい作品です。

○第2部 特選



「朝ごはんは、わ食!? よう食!？」
浜田市立旭小学校 3年 岡本 悠里

両視の朝食の好みから、出身地による朝食の違いを調べる着眼点が素晴らしいです。また、テーマを絞ることにより、多彩な朝食の内容がわかりやすくまとめられています。目を惹きつけるタイトルと、実際にアンケート調査を行い、鳥根県と奈良県のデータをわかりやすく並べています。さらに、写真を使用することにより表現を工夫した作品となっています。



「少子高齢化の解決策は？」

松江市立法吉小学校 6年 青山 和

鳥根県の課題でもある高齢化の解決策として、Uターン・Iターンの視点からだけでなく、転入者、観光客を含めて考察しようとした点が素晴らしいです。

日々の学習を活かし、情報データベースを使って多様なグラフの組み合わせを駆使している点、一つのデータの考察から次の調査テーマを決めて調べるなど全体としてストーリーのある調査がわかりやすくまとめられています。

情報量の多さと分析力からの結論の導き方、レイアウトの仕方も優れた作品となっています。

○第4部 特選

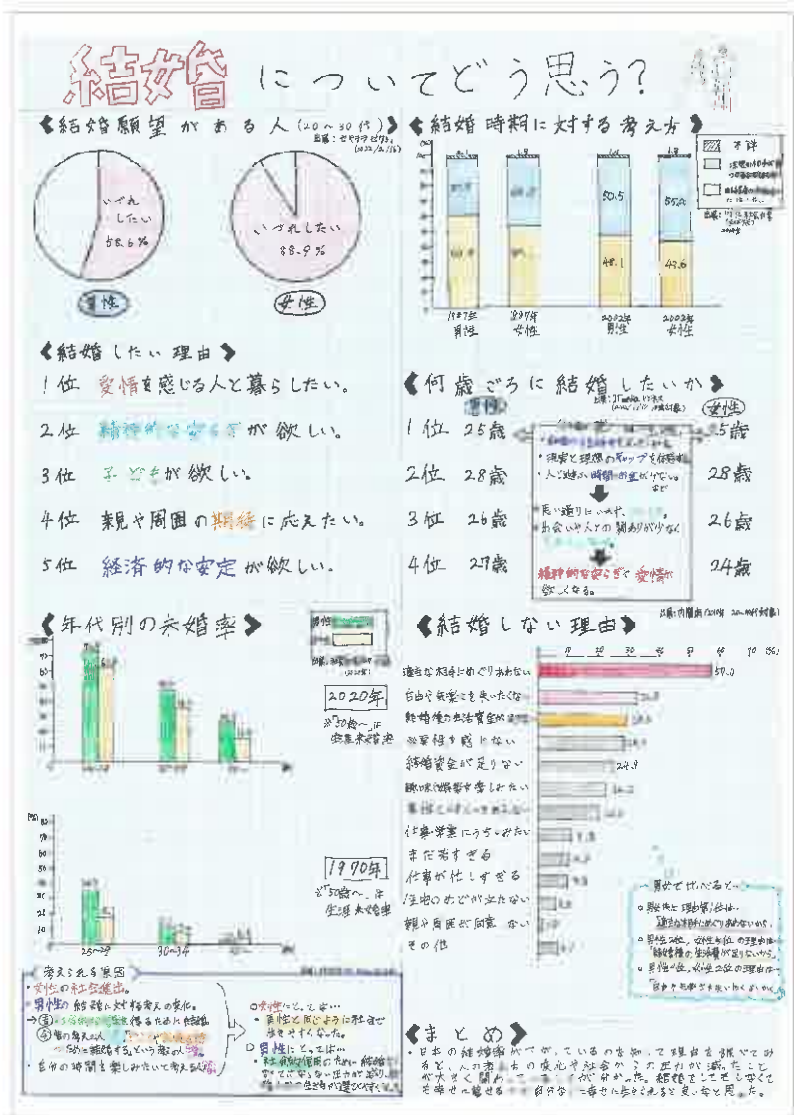


「教員不足の原因&打開策」
 島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程 2年 影山 亜胡

「教員不足」という全国的な課題をテーマにし、縦書きの見出しが新聞記事のようで斬新です。

身近な先生を対象にアンケートを取り、必要なデータを様々な方向から調べて集計をしていることから、アンケート内容についてのグラフの表現と自分なりの打開策を打ち出す努力がうかがえます。

全体的にわかりやすくグラフでまとめられており、中学生ならではの効果的に表現する工夫、レイアウトの仕方が優れた作品となっています。



「結婚についてどう思う？」
 島根県立横田高等学校 2年 水内 美紘

結婚しない若者が増えている中、高校生が身近な課題としてテーマ設定した点が素晴らしいです。

インターネットなどの資料を引用してどう考察されているのかを審査のポイントとし、様々な出典をもとにわかりやすくまとめられていました。

高度な表現の仕方も、高校生らしい作品となっています。

身近なデータを加えながら地域の課題に迫り、分析していくようなアプローチがあるとなお良いでしょう。

日本ってそこまで女性差別国？ ジェンダーギャップ ワースト22位ってホント？

2015年 SDGsが掲げられ、2030年までに達成することが目標となっている。目標までの年数は半分を切った。17つの項目の中の1つは、「5 ジェンダー平等」が掲げられている。
世界経済フォーラムのジェンダーギャップ指数で、日本の男女平等ランキング(2023)は146か国中125位である。日本は本当に男女不平等なのか？ どうなことが理想なのだろうか？
日本のジェンダーギャップの現状を改めて知り、ジェンダーギャップ解消のために何が必要か考えた。

経済
1に近づけばほど男女格差が少ない

政治
アイスランドが最上位

健康
アイスランドが最上位

ジェンダーギャップ指数
アイスランド: 0.861
日本: 0.647

色の濃い国ほど、ジェンダーギャップ指数が高い(男女格差が大きい)

色の薄い国ほど、ジェンダーギャップ指数が低い(男女格差が小さい)

<世界経済フォーラム2023年ジェンダーギャップ指数>

日本の特徴

- ・教育と健康はほぼジェンダー平等
- ・経済 賃金格差(会社員正規雇用に多く生産年収は男性の3/4程度) 管理職が少ない(世界平均27.1% vs 日本14.7%) (ジェンダーステレオタイプによる進路選択の制約も)
- ・政治 女性の政治への参画が少ない 女性の総理大臣はゼロ 女性の大臣や国会議員数 10%未満 (幹事部長選挙における女性議員の全国平均11.8%)

<G7各国のジェンダーギャップ指数の推移>

日本は16年間ほぼ横ばい

国	2008年	2023年
日本	0.645	0.647(-0.002)
フランス	0.652	0.766(+0.114)
ドイツ	0.752	0.815(+0.063)

(出典) (2023年8月10日現在)
 ・Global Gender Gap Report 2023
 ・世界経済フォーラム「ジェンダーギャップ指数」
 ・国際労働機関 ILO
 ・国際開発報告書 2021/2022

ジェンダーギャップ指数の課題

ジェンダーギャップ指数は、各国における男女の数の均等や出率を構成指標とし、特定の領域や領域において、男性と女性間の代表性や参加度が均等であること目指した指標である。

- ・男女のどちらも好ましい状態である場合だけでなく、男女のどちらも差を感得である場合でも、両者の差が小さければ指数は良い値となる。例えば、男女ともに経済参加が低かったり、男女ともに教育を受けていなかったりする場合も「ギャップは小さい」と評価される
- ・文化やスポーツに関する指標は入っていない

その国の男女間の相対評価であって絶対評価ではないため、上位であれば生活環境等が必ずしも良いとは言えず、特定の要素を高く評価しすぎているという批判がある。14項目の構成指標や、その重み付けの妥当性も検討する必要がある。

男女が平等な権利と機会を持つには、何をすべきか

- ①「男らしさ」「女らしさ」の固定観念を無くす
 - 差別的な発言や行動を防ぐ
- ②性の在り方について、学校教育に取り入れる
 - 多様化する性の在り方についての正しい知識を持たせる
- ③女性の地位向上・活躍を促進する
 - より多くの人に女性支援の制度を周知し使ってもらう

「日本ってそこまで女性差別国？
ジェンダーギャップワースト22位ってホント？」

島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程 3年 岩本 実久

着眼点、ビジュアルともに文句なしの作品です。
 今ならではのテーマについて調査されており、サンプルデータ数、見やすさ、結論の求め方が素晴らしいです。
 目を引く工夫として色、フォント使いが優れており、加えて、データをレーダーチャート、折れ線グラフ、地図グラフなどでわかりやすく表現され、パソコンの機能を駆使しています。
 考察したことについて、さらに継続的に調査されることを期待したい作品です。

令和6年度島根県統計グラフコンクール 特選作品・講評

○第1部 特選

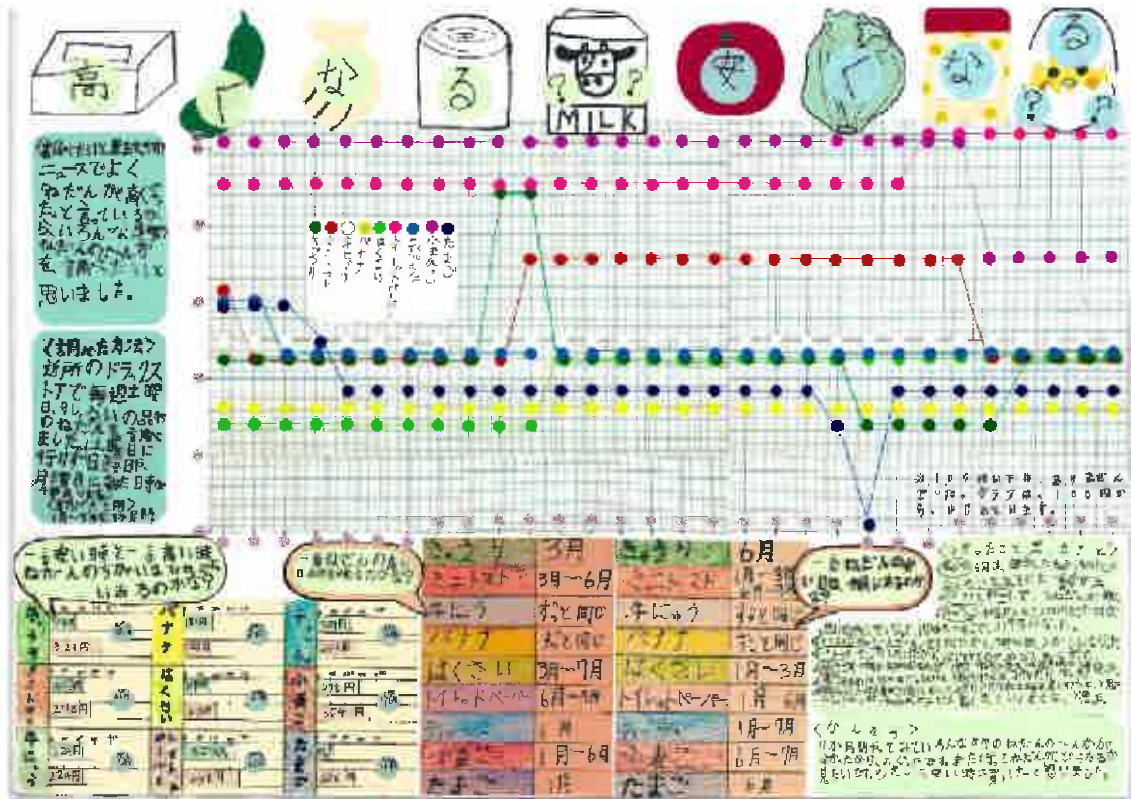


「のびるのびーるとどうなっとう!？」
 松江市立内中原小学校 2年 影山 敦士

自ら納豆を混ぜ、回数と混ぜたもの別の2つのアプローチからデータをまとめている子どもらしい発想の作品です。

結果もグラフとして見やすく、絵と図、色合いもきれいに表現されています。

○第2部 特選



「高くなる??安くなる??」

松江市立城北小学校 3年 神田 桃

○第3部 特選



「宍道湖から夕日を見ている人はどのくらいいるの？」

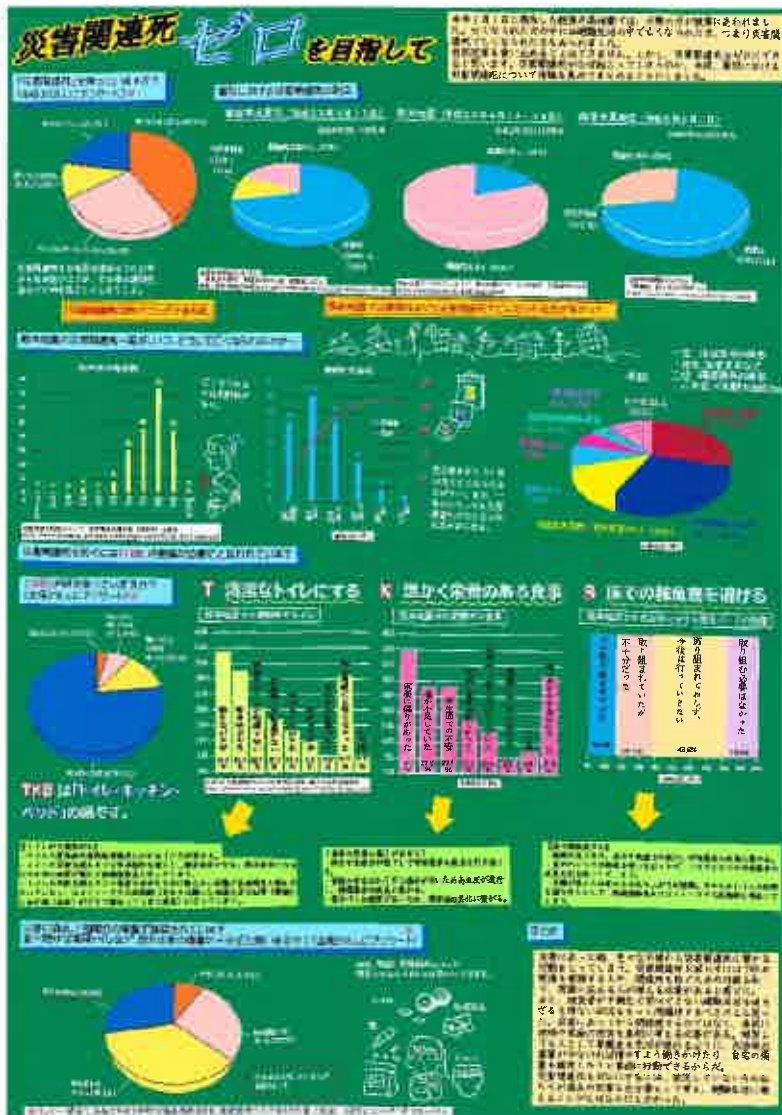
松江市立乃木小学校 5年 村山 冬華

テーマが地域性に富んでおり、郷土愛が感じられます。地元の良さを数値によって確かめ、グラフで表すことで客観的に捉え、これからの松江に思いを寄せている作品です。

現地に足を運び、データを取っている姿勢がすばらしいです。

作品全体の見た目も美しく、心に入ってきやすい好印象の作品です。

○第4部 特選



「災害関連死ゼロを目指して」

島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程 3年 片岡 睦深

緻密な紙面の構成でビジュアル的にも素晴らしいです。

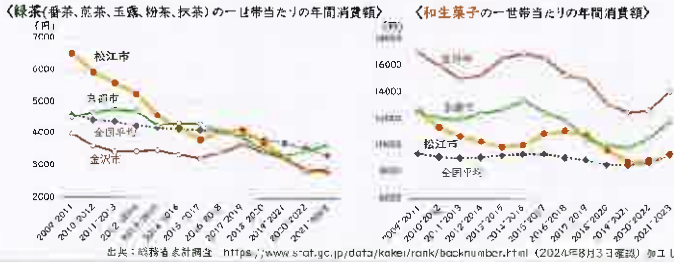
グラフの意味をよく理解していて、見る人に内容が分かりやすく伝わる作品となっています。

災害発生時に注意すべきことが啓発されていて、これからの暮らしに生きる作品です。

○第5部 特選

松江の中学生に茶の湯文化は浸透しているか？

島根県松江市は、京都市・金沢市に並び日本三大菓子処です。松江藩主であった松平不昧公が、作法にこだわらずにお茶を楽しむ茶の湯文化を広め、今でも日常生活に茶の湯文化が根付いていると言われています。松江市内には老舗の和菓子屋、お茶屋が沢山あり、スーパーでも緑茶のコーナーが広くて、抹茶と一緒に茶せんも売っています。しかし、最近ではコーヒーや紅茶や色々なものを飲むようになり、「和菓子離れ」「抹茶離れ」が進んでいるそうです。そこで、現在の松江の中学生にごくまで茶の湯文化が浸透しているかを調べるため、アンケートを行いました。



全国的に緑茶の消費額は減少傾向となっている。日本三大菓子処の3都市の中で、松江市は、特に消費の低下のスピードが速い。県庁所在地や政令指定都市の52都市中、2009~2011年は緑茶の消費額は6位だったが、2021~2023年は全国平均を下回り、36位だった。また、和菓子の消費額は2009~2011年の5位から2021~2023年に28位と全国平均並みになっている。

松江の中学生は茶の湯に親しんでいるだろうか？ アンケートの概要(松江市の茶の湯文化アンケート) 対象者:島根大学教育学部附属義務教育学校7年~7年生 310人 (有効数395人・回収率87.3%) 方法:Google Forms (基本) 時期:2024年7月16日~7月27日

Q 茶の湯文化に興味がありますか？ (複数回答可) 回答数 252人

61%が茶の湯文化に興味がある

Q 抹茶を飲む人は、どこで飲みますか？ (複数回答可) 回答数 252人

自宅(66%)、学校(28%)、カフェや喫茶店など(3%)、その他(旅行先、会社など) (2%)

Q 自分で抹茶をたてた経験がありますか？ (複数回答可) 回答数 239人

76%が抹茶をたてた経験がある

Q 抹茶を自分でたてた経験がある人は、どういう時にたてましたか？ (複数回答可) 回答数 239人

37種類や学校「のりキョウム」 (10(66%))、家族や親戚の集まる行事やイベントなど(46(20%))、お祭りやイベントなどのお祝いや練習(20(9%))、習い事として(20(9%))、その他(お店、旅行先、友人の家など)

Q 抹茶を飲む頻度はどのくらいですか？

毎日飲む 3%

Q 和菓子を食べる頻度はどのくらいですか？

毎日飲む 3%

「松江の中学生に茶の湯文化は浸透しているか？」 島根大学教育学部附属義務教育学校後期課程 1年 岩本 暖之

松江らしいテーマで一つ一つのグラフが綺麗に描けている作品です。ICTを活用し周りの友達から生のデータを収集している点も素晴らしいです。質問の内容等によりグラフを使い分け、見た目・色使い共に工夫されています。

○第6部 特選

どうする？文理選択 自分の“好き”を見つけよう！

高校生の進路選択において、最初の関門は「文理選択」である。一般的に「男子は理系、女子は文系が向いている」といったイメージをもたれるが、固定観念にとらわれない、なりたい自分に近づける進路を選びたい。高1生は何に悩んでいるのか？そして、先輩方はどのように進路選択されたのか、何が影響したかを参考にしたいと思い、高校でアンケートを実施した。 ※グラフが縦向きなのは質問はすべて自由回答です

〈高1生〉具体的に文理選択を考える際に、どのような悩みがありますか？ (複数回答可)



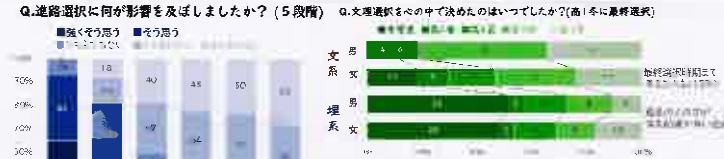
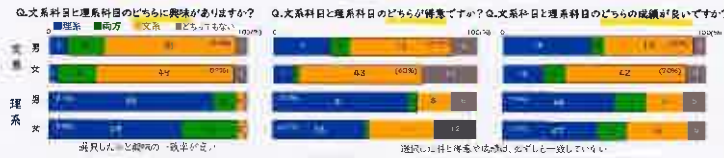
教えて!!先輩!

〈高2・高3生 (文理選択後)〉

文理選択に関するアンケート 概要
 対象者と回答数：島根県立松江北高等学校生
 1年生 153名 (男52名 女100名) 回収率43%
 2・3年生 214名 (79名 129名) 38%
 期間：2024年7月7日～7月13日
 方法：Google Forms (匿名) によるWebアンケート



一般的に理系選択は金銭面で男子前向き、女子2割。金銭的に一歩と比較し、収入確保が多い傾向



男女とも、文系科目・理系科目の得意不得意よりも自分の好きや興味によって文理選択している!! 私自身も悔いのない進路選択をしていきたい。

- 先輩たちから高1生への文理選択へのアドバイス
- 自分の興味関心で選択しよう。得意が得意に感じられる。自分が得意にやりたいうと、競争のあるとを押し返さず
 - 自身の将来のビジョンを持つこと。将来やりたい職業を具体的にイメージする。より興味を目標を持つことができる
 - 得意不得意だけでなく、得意不得意を避けて、自分が得意に思っている科目から進路を決める
 - 文理融合の視点も大切。文理どちらを選んでも、将来は両方の知識が必要になる可能性があることを見極める
 - 後悔しない選択をする。そのために、進路を決める前はあらゆる角度から、メリットデメリットを洗い出す。

「どうする？文理選択 自分の“好き”を見つけよう！」
 島根県立松江北高等学校 1年 岩本 実久

高校生らしいテーマで、他の学年にもアプローチしている点が素晴らしいです。自分の将来を統計的に整理し、後輩へのアドバイスに繋げている点も評価できます。未来をどう描くかという統計の良さを存分に生かした素晴らしい作品となっています。